

- 沖縄県南城市にある株式会社みやぎ農園は、昭和63年から続く養鶏・野菜農家。平成29年から、市内の就労継続支援A型事業所から、精神障害を持つ利用者を中心とした6名程度を施設外就労として受け入れ、卵のパック詰めと農産物の袋詰めの作業を担っている。
- 障害者が、作業の一部を分担することで、人手不足を解消。
- 農林水産省の「農の雇用事業」を活用して新規就農者を育成・独立させた実績があるなど、多様な人材の受入れに積極的。また、社内にはGAP審査員とJGAP指導員が在籍し、障害者も作業がしやすくなるような生産工程の管理に力を入れている。

取組の内容

- ◆ 約13,000羽の平飼養鶏（約30a）とショウガ、パパイア等の露地栽培（約85a）、約80戸の契約農業者から出荷されるピーマン等の農産物販売、マヨネーズ等の加工品の販売も実施。
- ◆ 障害者は、基本的に卵のパック詰めと農産物の袋詰めにそれぞれ3名ずつ行っており、週5日の連日勤務。畑での除草作業について、事業所の人員に余裕がある時に数名依頼。
- ◆ 音に過敏な障害者を、喧騒な卵の集荷場から農産物の集荷場へ配置換えするなど、適材適所での作業となるよう配慮。
- ◆ 日本生産者GAP協会のGAP審査員2名、JGAP指導員1名が在籍。

取組の効果

- ◆ 23名の従業員だけでは人手が不足していたが、障害者が作業を担うことで、人手不足が解消。
- ◆ 健常者社員が、養鶏に集中できるようになり、高い技術を維持。平成31年1月からは、JICAを通じてブータンへ養鶏技術を移転する取組を開始。
- ◆ GAPに力を入れており、障害者も作業がしやすくなる生産工程の管理を重視。
- ◆ 今後は、ほ場及び養鶏場を拡大する予定であるため、事業所と人員の調整を行いながら、作業の多様性を拡大。

農産物袋詰め作業



卵パック詰め作業



出荷される卵



出荷される農産物



野菜の水耕栽培を軸とした障害者の安定就労を実現

〔運営主体：社会福祉法人 みやこ福祉会〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「野菜ランドみやこ」他〕（沖縄県宮古島市）

WEBサイト：<http://www.miyakofukushikai.jp/yasailand.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 沖縄県宮古島市にある「野菜ランドみやこ」は、平成22年から社会福祉法人みやこ福祉会によって運営される就労継続支援A型事業所。現在、約20名の障害者が、葉物野菜の水耕栽培を通年で行っている。
- 平成30年度には、育苗施設（苗テラス）のLED照明の取替えに、農林水産省の交付金を活用。また、ハウスや附属施設の整備には、厚生労働省の社会福祉法人等向けの補助事業（*）を活用。
- 水耕栽培による葉物野菜は、宮古島の中で通年で入手できる貴重な野菜であるため、注文に生産が追いつかないほど人気であり、障害者の安定的な就労を実現。

* 社会福祉施設整備事業用、重度障害者多数雇用事業所施設設置等助成金

取組の内容

- ◆ 鉄骨ビニールハウス約30aにおいて、リーフレタス、ルッコラ、水菜などを水耕栽培。播種から収穫までは約1ヶ月であり、年間12作。
- ◆ 障害者は、9時半から16時半まで、は種、定植・収穫、袋詰め等の作業を行う。
- ◆ 知的障害者が視覚的に理解できるよう、作業工程ごとに写真等のパネルを活用。
- ◆ 生産された野菜のうち、規格外のものは、平成30年に設立したグループ内の就労継続支援B型事業所「ビュッフェレストラン太平山」で提供。

取組の効果

- ◆ 水耕栽培による葉物野菜は、宮古島内で通年で入手できる貴重な野菜として、注文に生産が追いつかないほど人気であり、年間を通して作業があることで、障害者の安定的な就労を実現。
- ◆ 野菜ランドみやこが軌道に乗ったことで、平成27年度に、新たに就労継続支援B型事業所「トマトランドみやこ」を開設し、トマト栽培へ取組を拡大。
- ◆ 新たな地域交流の拠点として開設したレストランでも、障害者の雇用を拡大。
- ◆ 水耕栽培による農福連携の先進地として、JICA等から視察を受入れ。

水耕栽培ハウスの様子



苗テラスの様子



選別作業の様子



レストランの様子



JICA視察受入れの様子

